

T I Aにおける大学院連携活動の取り組み

村上浩一

1. 理念 最近の各界における日本のリーダーは昔のリーダーや欧米のリーダーに比べ、層の厚さ、教養、迅速な決断と的確な行動という点で負けていると感じる。この感は、3・11 大震災以後に一層強い。したがって、目まぐるしく変化して先が読めない現代においては、第一にどのような人材を育てるのか、第二にその目的に沿う今後百年の有益な教育システムとはどのようなものか、という問いを発し、それに対する解答を模索し実践することが大切だと確信する。

第一の問いに対しては、自己形成が個々人の人生の目標であり、かつ、年月を掛けて自分自身でそれを達成できるような人間を育てることだと考えている。よくT字型人材育成という。それは専門の深堀をし、専門関連の俯瞰的視野を持つ人材に育てることである。さらに、文学、芸術、歴史、哲学、自然、人間、社会、経済などの教養もその上に大切だ。各人は専門を深く掘り下げると共に、一生涯の間に多くの俯瞰的視野を広げることに関心が、豊かな成熟に繋げようと努力することが基本である。この努力なしでは、“精神のない専門人、心情のない享楽人”が生まれる可能性がある。このような人間の器の形成は、才能だけでなく努力次第で時間と共に大きく成長して行き、特にリーダーには必須なのだ。

第二の問いに対するヒントは、歴史と経験から学びたい。人は、自分の前を歩く先人の教えに常に耳を傾けるが、同時に、自分よりも後から来る人々にはその質問に答え、時に教えることが大切である。大学の研究室に卒研で入ってきた少々頼りない学生も、卒研を済ませ、大学院に進学し、新しく入ってくる卒研生に何かを教え始めると、兄貴分として驚くほど成長する。しかし、将来のリーダー候補に育てるためには、これを序の口として、さらにひと工夫の訓練、優れた先人との交流が実はこの時期に必要である。そのため、後述のオナーズプログラムのように、人生経験が豊富で研究業績もあり教養も豊富な連携コーディネータが、人材育成と最先端研究の産学独共鳴場に加わることに今の大学で重要な意味があると考え。大局感のあるリーダーが多く輩出した昔の旧制高校の教育や、20世紀初頭にハンガリーから多くの優秀な科学者が育ったギムナジウムでの教育には、優秀だが世俗的な野心がなく、学問と研究の楽しみ、喜びを伝え、学生を成長させることに大きな喜びを感じる教授が多くいた。すべてのレベルで、後から来る人によく伝えることの大切さである。オナーズプログラムを含むつくば産学独連携ナノエレ人材育成プログラムや現在検討中のT I A連携大学院は、そのような位置付けになるのではないかと。

2. 実践 つくばにおけるナノテクノロジーに関する重要な課題として、1) つくばで

の相乗効果、集積効果を具体的にどのような手法で引き出すか？ 2) そのために如何に研究と人材育成の“共鳴場”作りを進めるか？ ということを挙げてきた。つくば産学独連携教育研究連携システムによるナノエレ人材育成プログラムでは、オナーズプログラム (<http://www.tsukuba-honorspg.jp/>) をコアーにして 2010 年 4 月から 5 年計画でスタートし、その充実と拡大を進め、TIA 連携大学院に繋げようとしている。オナーズプログラムの重要なポイントを以下に記す。

1. 前述のような連携コーディネータを 7 名配置することにより、つくばで技術の流れ、知の流れ、人の流れを引き起こす。勿論、この連携コーディネータは、卓越した研究業績あるいは実務経験を有するエキスパートであり、参加してもらう関連研究グループの研究スキルを把握し、企業の重要ニーズを熟知している。
2. 選ばれた各オナーズ院生に対し、連携コーディネータがその指導教員と産学独の適任のアドバイザーとでローカルな共鳴場の形成を行い、オナーズ院生が活動できる体制になっている。約 20 名のオナーズ院生のローカル共鳴場を有機的に纏め、この人材育成システムに海外の一流研究者やオールジャパン大学体制で優秀な教員に参加をしてもらって、グローバルな共鳴場の創成を目指す。
3. 具体的なプログラムとして、毎年 7 月末の 2 週間に世界トップ教員による英語での単位化した集中講義を開講すること、つくば国際ナノテクシンポジウムを毎年同じ 7 月の最後の週に 3 日間開催すること、さらに講義と研究への参加のためにオナーズ院生を 3～4 カ月間海外派遣すること、毎年 3 月には企業人、企業研究者を招待し、オナーズ院生の発表会を開催して産業界からの意見をもらうこと、などが含まれている。

以上の事柄の展開として、本年 4 月発足の T I A 大学院連携コンソーシアムのメンバーである AIST、NIMS、筑波大、理科大、芝浦工大のほかに、つくばで研究を行うオールジャパン大学間連合と産業界の研究者が常に参加する持続的なつくば連携ナノテク共鳴場を創成し、全国大学にも浸透させてゆく。そのために、新たにリーディング大学院プログラムを通してオナーズプログラムをリーダー育成システムとして発展させ、他大学の組織的な参加のもとで TIA 連携大学院に繋げる予定である。このような構想の検討を、TIA 大学院連携 WG と筑波大学数理物質科学研究科等が汗をかいて進めている。